

発言議員	議案件名・要旨	答弁者
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術振興条例の制定を検討すべきと考えるがこれについての見解は、 ・文化・芸術関係の各種団体の活発な活動のための財政的な支援を行うべきと考える（国の補助金制度等の活用も含めて）がこれについての見解は、 <p>2. 通学区域制度の弾力的運用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の通学区域制度の制定にあたっては、どのような事項を基準としたのか。どのような審議がなされて決定されたか。 ・通学区域審議会の設置をすべきであると考えがこれについての見解 ・通学区域制度（弾力的運用についての実施状況等）や区域外就労の仕組みなどについての保護者への周知を具体的にどのように行うのか。 ・通学路の安全性についての見解及び今後の通学路安全整備計画をどのように考えているか。 ・通学区域制度の弾力的運用を早急に図るべきと考えるがこれについての見解は（特に通学距離の問題） <p>3. 学校評価制度の確立について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の小中学校の内部評価・外部評価の実施状況、その評価内容及び公表の実施状況 ・学校管理規則に自己評価・外部評価及びそれらの公表についての規定を設ける。また評価（自己・外部）公表の方法についての手引書の作成や研修会を取り入れていくべきと考えるがこれについての見解は。 	<p>② 教育次長</p> <p>教育長</p>
1番 小野幸夫議員	<p>1. パワーリハビリテーションについて</p> <p>2. 人獣共通感染症 一人と動物の共生 について</p>	<p>① 市民福祉部長</p> <p>”</p>

【6月16日】

5番 中島 資二議員	<p>1. 教育問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの教育は、あいさつから始まるのでは、 ② 非行防止についての予防研修会、講演会等はよく開催されるが、非行に陥った場合の研修会等の開催はほとんどない。必要と思うが、また対応策は ③ 教育環境整備について <p>南中学校前の道路は、歩道もなく、塗装に段差があり大変危険である。また、台風時等冠水し、通学に支障をきたしている。</p> <p>2. 交通安全対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所に対応策について <p>葛西用水の整備で事故が多発しているが、このような危険箇所がどの程度あるか把握しているか。またその対応策は。</p>	<p>① 教育次長</p> <p>”</p> <p>② 都市整備部長</p> <p>③ 経済環境部長</p>
22番 岡戸 稔議員	<p>小さな行政への挑戦</p> <p>様々な財政再建策が実行に移されているが人員削減策が無いように思う。現在470名の職員を、10ヶ年計画として100名減の370名とする考えは無いか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① これからの10年で約140名の定年退職が見込まれる。これに対し毎年4～5名の補充で10年 40～50名となる。 ② 過渡的処理として、職員OBや民間人を嘱託として臨時雇用する。 ③ 仕事とサービスと支出についての根本的な見直しをする。 	<p>市長</p>
13番 蜂須直巳議員	<p>1. 市民レポーター制度の導入を</p> <p>市政への市民参画、協働による街づくりについて市民サポーター検討委員会の設置が本年度の課題となっているが、市民自らが街づくりを担う、市民自治に向け。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市民参画による広報活動の推進（地域行事や文化情報等） ② 地域の環境情報、保全に関する意見、アイデア等の提供等を市民レポーターに直接担ってもらい、広報紙づくりに参加をしてもらう。広報が市民に身近なものになると考えるし、今日市政のテーマである市民と協働の街づくりにも合致すると思うが。 	<p>① 総務部長</p>